

様式1

平成31年度 学校評価表

学校教育目標	確かな学力と豊かな心をもち、たくましく生きる子供の育成 ～ かしこく・やさしく・たくましく ～		
--------	---	--	--

a ミッション	深い学びを目指した授業スタイルの確立による学力向上の実現	a ビジョン	チーム西藤による 新たな学校文化の創造
---------	------------------------------	--------	---------------------

尾道市立西藤小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	達成値				イ	ロ	ハ			
確かな学力	かしこく	基礎・基本の確実な定着	個に応じた指導の充実 ・かがやきタイム ・補充学習	単元末テスト（国・算）の平均点が80点を超える児童の割合	85	74.0	83.0	97.6	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成値が7月より9ポイント学校全体で伸びている。授業改善や個別指導、補充学習の効果が表れている。 算数科の学期末テストの平均点が80%を超えた児童については、学級間の差(特に3年、4年の算数が課題である)や個人差が見られた。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 教育全般にわたって工夫、改善し、きめ細かく粘り強く取り組んでいて、その結果が達成値が大きく伸びるという成果に繋がっていると思う。個人差があり、大変とは思いますが、今後も継続して取組をお願いしたい。 個別学習や補充学習等により、良い結果が見られている。引き続き指導をお願いしたい。 論理的思考力を伸ばすことが大事である。(数独など取り組むと面白い) 働き方改革等が問われ、大変と思うが、工夫をして教職員全員で取り組んでほしい。 家庭学習も大事にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値に届いていない児童については必要に応じて個別指導や再テストを行う。 学力が定着しにくい児童の要因を、様々な側面から分析するとともに、個別対応が必要な児童には、担任外の職員もかわり、学校全体として補充学習の充実に取り組む。
豊かな心	やさしく	お互いの良さを認め合い、相手や時と場に応じた生活ができる児童の育成	家庭や地域と連携した「挨拶」の取組	進んで明るい「挨拶」ができる児童の割合	90	85.5	92.6	102.9	A	<ul style="list-style-type: none"> 達成値をクリアすることができた。ポイントをはっきりさせて「挨拶運動」を実施したことで、具体的なゴールの姿を共有することができた。 保護者の方の協力を得たことで、家庭でのあいさつが高まった。また、遠くの人にも見かけたらいさつをすることを意識させたことで、地域でも自分からあいさつをする児童が増えてきた。 形式的な挨拶になっている児童がみられることが課題である。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 進んで明るい挨拶ができてきている児童が増えていて、大変よいと思う。この良い状況が継続していくように、これからも家庭との連携や啓発をお願いしたい。地域でも、児童が挨拶しやすい環境づくりをしていくことが大切と考える。 学校での取組で、よく挨拶ができるようになり感謝している。低学年に関しては、保護者の協力というよりは保護者の努力が必要である。PTA等を通じて呼びかけてほしい。地域へは、諸会合等で働きかけて、挨拶運動を盛り上げていきたいと思う。 数値化して評価することが難しいと思うが、引き続き取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だけでなく、登下校で出会う地域の人や遠くにいる人みんなに挨拶できるように習慣づける。 相手を理解し、自主的に声を掛け合うことができるように、つながりを深める取組をしていく。具体的には、「ありがとう」箱の活動を実施し、友だちのよさを紹介し合い、みんなで共有していく取組を進める。
健やかな体の育成	たくましく	健康でたくましい体の育成	継続的な取組による体力の向上	「立ち幅跳び」において、県平均かつ全国平均値以上の児童の割合	80	57.6	70.8	88.5	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で達成値が13.2ポイント伸びた。朝会時や体育の授業時に取り組んだ成果がでていると考える。また、低学年の記録が伸びており、脚力の強化とともに、立ち幅跳びの一連の動きがなめらかにできるようになったことが理由として考えられる。 測定時期が冬だったため、記録が伸び悩んだ児童もいた。 児童の総合的な体力向上への取組が必要である。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 達成値が大きく伸びていて、日々の継続した取組の大切さを感じる。児童一人一人が自分の体力向上が実感できれば、さらに意欲をもって頑張れると思う。 最近、児童が近くの遊園地でボール遊びや遊具を使ったりして遊んでいる姿をよく見かける。今までは、外遊びをする児童を見かけることがなかったため、たくましい子供が育つものと期待している。 楽しんで取り組めるように工夫していくと良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> サーキットの内容を保健部で見直し、来年度6月まで継続して行う。 県平均かつ全国平均値以上の児童の割合を評価するのではなく、個の伸びで評価する方が児童の意欲につながると考える。

【自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成)

C: 60≦(もう少し) < 80

B: 80≦(ほぼ達成) < 100

D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。